





大切な人なのよ、だから私のようにして甘えたらよいのよ」と言っていると人差し指で私の顔をたたいた。わかった」と言えないので頭を下げた。すると主人が「忙しいから手伝ってくれ」と頼んだから、若者が服を脱いで、店の上着を着て何かをやりかけた。とみちゃんはうれしいのだらう、うきうきとして下から私をなでてくれた。とみちゃんは若いし美しい人だ。夕方、若者が帰りがけに「助よ、お店を守って」とみさんと仲良くしていなよ」と言ってくれたので、降りて足の廻りをニヤニヤと鳴きながら回った。